

福井・恐竜発見物語

～奥越の熱い日々～

大野地球科学研究会

はじめに

福井県勝山市には、年間来場者が 90 万人を超える福井県立恐竜博物館があります。この博物館は、勝山市北谷町を流れる杉山川の溪谷から恐竜の化石が続々と発見されたことがきっかけとなって勝山市内に建てられ、2000（平成 12）年に開館しました。

この恐竜博物館建設のきっかけとなった恐竜の化石は、どうして勝山市北谷町で発見されたのでしょうか。

そもそも「新発見」というもののほとんどは、地道な研究に幸運な偶然の重なった結果によるものと言っても過言ではないかと思います。恐竜化石の場合も、大陸と違って地質構造の複雑な日本では、広い大地の地層の中に「恐竜化石がこの辺りに埋まっている」などと、誰も最初から分かっているわけではありません。やはり、地道な研究と幸運な巡り合わせのお蔭と言えると思います。

では、恐竜博物館建設の“きっかけ”が勝山市北谷町での恐竜化石の発見であったとすれば、恐竜化石が発見されることになった“そもそものきっかけ”は、何だったのでしょうか。

この、“そもそものきっかけ”について、実は当研究会の活動が大きく関わっていますので、初代会長である前田^{まえだ}裕一^{ひろいち}氏の当時の記憶を中心に、研究会の会員や関係者の証言などを集めてエピソードをまとめてみようということになりました。

今回の企画には、会として事実を忘れないように残したいという率直な思いに加えて、嬉しいことに、地球科学の世界には素人でも学術研究の一助となる大きな役割を担えるということを多くの人に知ってほしいという強い思いを込めています。

以下の本編では、前田さんを語り手として物語を進めていきたいと思います。

これを読んでいただいて、「ああ、そうか。素人でもこういうことに寄与できるのか」というふうに思っただけならば、大変嬉しく思います。

平成 29 年 8 月 3 日

大野地球科学研究会 会長 村田 守男

目 次

序章 『しずかな湖』	1
第1章 日中共同調査（勝山市北谷町）までの道のり	
■大野地球科学研究会について	2
■先達の方々	2
■前田四郎先生	3
■バクさん	4
■前田先生からの要請	5
■勝山市へ相談に	7
■勝山市の化石展開催決定まで	7
■化石展に備えて	8
第2章 日中共同調査（勝山市北谷町）実施	
■顧博士来日へ	10
■顧博士、来日	13
■中野侯現地調査	14
■現地調査で見つけたもの	17
■和泉村を案内	18
第3章 日中共同調査（勝山市北谷町）以後の動き	
■小さな化石の正体	20
■動き出す『しずかな湖』	22
■「ワニの全身骨格化石」発表、そして	25
■本格的発掘調査へ	26
■東さんからの提案	27
■研究会の動き ―和泉村で恐竜の足跡化石を発見―	27
■恐竜博物館構想	28
■恐竜博物館建設地の行方	29
■初代館長に濱田博士を推薦	30
■むすび	31
あとがき	33
追補	34
巻末資料	

序章 『しずかな湖』

太古の昔、今から1億3千万年ほど前には、今の福井、岐阜、石川、富山の各県にまたがる地域に巨大な湖（古手取湖）が広がっていました。

古手取湖の一带は、時代によって、海だった頃もあれば、入り江であったり湖であったりと変遷があります。それで、その水底に堆積した地層は、海水成層の場合もあれば、汽水成層や淡水成層の場合もあるのですが、それらの地層を総称して『手取層群』と呼んでいます。

『手取層群』は、これまで多くの地質・古生物学者の研究対象とされてきました。

北陸地方での研究者としては金沢大学の松尾^{まつお} 秀邦^{ひでくに}先生がおられ、植物化石を中心に研究されていますが、ほんの30数年前までは、手取層群から大型の動物化石の産出がほとんどなかったことから、「古手取湖は恐竜などの大型動物のいない、『しずかな湖』だったのだろう」とされていました。

それが今日、手取層群からは次々と恐竜化石が発見されています。

特に、福井県勝山市北谷町中野俣に所在する杉山川が流れる谷からは大量の恐竜化石が発掘されており、その成果を基に2000（平成12）年7月には地元勝山市に大変立派な県立恐竜博物館が開館しています。さらに、2014（平成26）年には、発掘現場（註1）の近くに化石の発掘体験広場を備えた野外恐竜博物館が整備されるまでになっているのです。

（註1）

恐竜の化石や、この物語の鍵となるトリゴニオイデスが発掘された現場は、正確には勝山市北谷町中野俣という地籍（現在は居住者なし）で、そこを流れる杉山川の左岸の露頭です。当時、この露頭の現場を調査関係者や我々研究会では『杉山谷』と呼んでいました。この物語でも現場を『杉山谷』とする場合があります。